

第 1 回 文化プログラム検討部会 主な発言内容

開催日時：平成 26 年 6 月 5 日（木） 10 時 00 分～12 時 20 分、専門委員 18 名のうち 15 名出席

分野	氏名	主な発言内容
文化政策	吉本 光宏	会議冒頭に、2012 年ロンドン大会の文化プログラムを紹介
美術	日比野 克彦	○ 六本木や上野などの 文化拠点 を活かす取り組み ○ 障害者アート、アール・ブリュット の広域展開
音楽	大友 良英	○ 福島で始めた「 大風呂敷の上で盆踊り 」の全国展開 ○ 特殊音楽祭「 ノイズ・ジャパン 」の開催
音楽	岡部 真一郎	○ 過去の オリンピック開催都市アーティストとのコラボレーション ○ 東京や日本の古典、日本の小説家にインスピレーションを受け、海外で制作された映画の上映
伝統芸能	野村 萬斎	○ 「ボレロ」（日本舞踊とオーケストラのコラボレーション）のように、 日本古来の伝統芸能の良さを分かり易く発信
音楽	白石 美雪	○ 東京 アートゾーン （上野、六本木、池袋、新宿・渋谷、墨田）と ネットワークの構築
文化政策	草加 叔也	○ 聖火リレーのように 全国を回る盆踊りリレー など、人と人が出会いつながる、都市と都市、 地域と地域を結ぶ取組 ○ 東京都歴史文化財団、アーツカウンシル東京、文化庁や観光庁など、既存の組織をうまく生かしていく
演劇	津村 卓	○ 東京一人勝ちを止める 。地域と東京の共同制作など、全国の劇場、音楽ホール、美術館が双方向に連携 ○ 新しい盆踊りを全国でつくる など、全国各地が持つ記憶や資源を、国内外のアーティストが現代的にアレンジし、新しい価値観をつくる
伝統芸能	小野木 豊昭	○ 「伝統WA感動」や「神楽坂まち舞台・大江戸めぐり」、学校教育など、様々な場における 伝統芸能の出演機会拡大
映画	市山 尚三	○ カンヌなど国際映画祭への日本人監督の参加、タレント・キャンパス・トーキョー、海外映画人との共同制作などにより、 海外と渡り合える人材の育成 ○ 日本の過去風景が映る映画を貴重な文化遺産としてデジタル保存
文化政策	菅野 幸子	○ 東京に国際的な文化プラットフォームをつくり、世界中から様々なクリエイターを集め、 国際的な人材育成システムを構築
文化政策	太下 義之	○ 世界的イベントによる伝統音楽の国際発信。文化に携わる新しい職業を確立。文化支援を持続可能とする新たな財源の確保 ○ 世界のアート関係者を日本に滞在させ、日本の良さを知ってもらうことにより、 文化交流のハブとなる「日本ファン」を育てる
デザイン	深澤 直人	○ スポーツと文化の祭典を同時に楽しめるスマホ用アプリの開発 。空港や駅、ホテルなどにアート、芸術を埋め込む ○ ポップカルチャーの竹下通りと荘厳な明治神宮、東京駅丸の内と皇居など、伝統文化と現代の技術・文化をアートやデザインでつなぐ
演劇	高萩 宏	○ 様々なアイデアを上手に吸い上げ、整理し、しっかりと実行していく、 行政とアーティストの間に立つ信頼できる組織が必要
文化政策	三好 勝則	○ 人口減少、高齢化社会、社会基盤の老朽化など 東京、日本が抱える課題の解決に文化プログラムが貢献する ○ アーティストはもとより、様々な人が 文化の意義に気づくための大きなステージ として、文化プログラムを位置付ける